



さらには、日中最大 16 時間冷却を停止し 95%\*も電力を削減しながら冷たい製品を提供できる「ピークシフト自販機」の設置を今後も積極的に促進してまいります。

今年 4 月に施行された「改正省エネ法」では、8 時-22 時の時間帯における電気需要の平準化が求められていますが、「ピークシフト自販機」は、それよりも長い 7 時-23 時の時間帯に最長 16 時間冷却を停止し、最大時 95%\*の電力を削減しながら、冷たい製品を提供することができる唯一の自動販売機です。

「ピークシフト自販機」は、第 10 回エコプロダクツ大賞「推進協議会特別賞（節電優秀賞）」、平成 25 年度省エネ大賞では最高賞である経済産業大臣賞を受賞しています。

\*2010 年夏季の日中最大使用電力との比較による



平成25年度  
**省エネ大賞**  
(省エネ事例部門)  
主催：一般財団法人省エネルギーセンター

<テーマ>

ピークシフト自販機の

開発・普及による節電対策

## 【工 場】

札幌工場では、井戸ポンプの日中運転を停止することや、不要箇所の消灯などで、ピーク時間内の消費電力を削減いたします。

その他、オフィスや倉庫内での照明の間引きや小まめな消灯といった省エネ活動とあわせ、当社全体で7月1日より9月30日まで電力使用ピーク時間帯（9時～20時）における電力使用量を、2010年夏季の最大使用電力と比べ15%以上削減するべく取り組んでまいります。

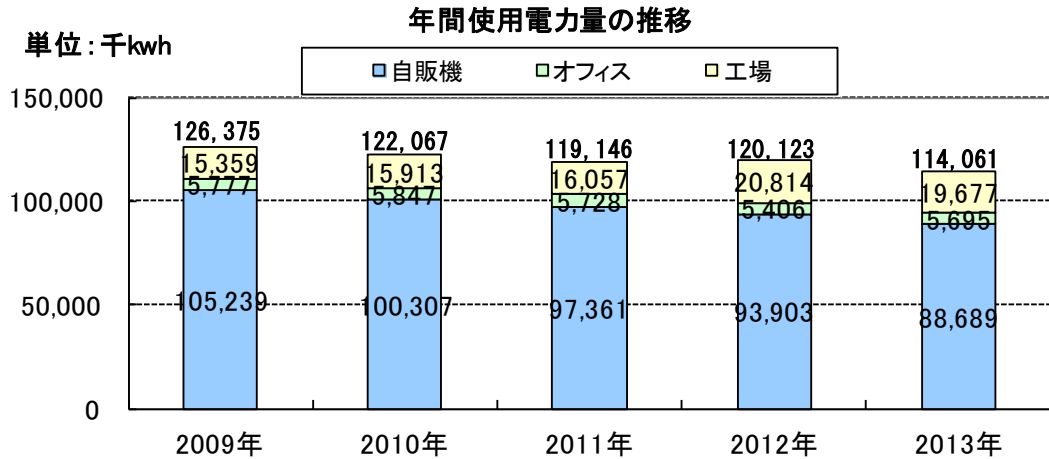
当社では北海道のみなさまの水分補給ニーズにお応えし、清涼飲料水を安定的にご提供するために、今後も全国的な電力の安定供給に貢献するため、お客様のご理解をいただきながら、節電の取り組みを継続して進めてまいります。

<参考資料>

1. これまでの省エネ実績

北海道コカ・コーラグループは、事業活動における年間使用電力量（kwh）を継続的に削減しております。

自動販売機および工場における省エネ化の各種取組みに加え、オフィスでは従来からの温度管理の強化や使用電力の見える化、クールビズ、ウォームビズなどを継続し、一部の事業所ではソーラーパネルを設置しております。あわせて、蛍光灯など省エネタイプの照明器具を用いた節電対策など、一貫した省エネ活動を行っております。

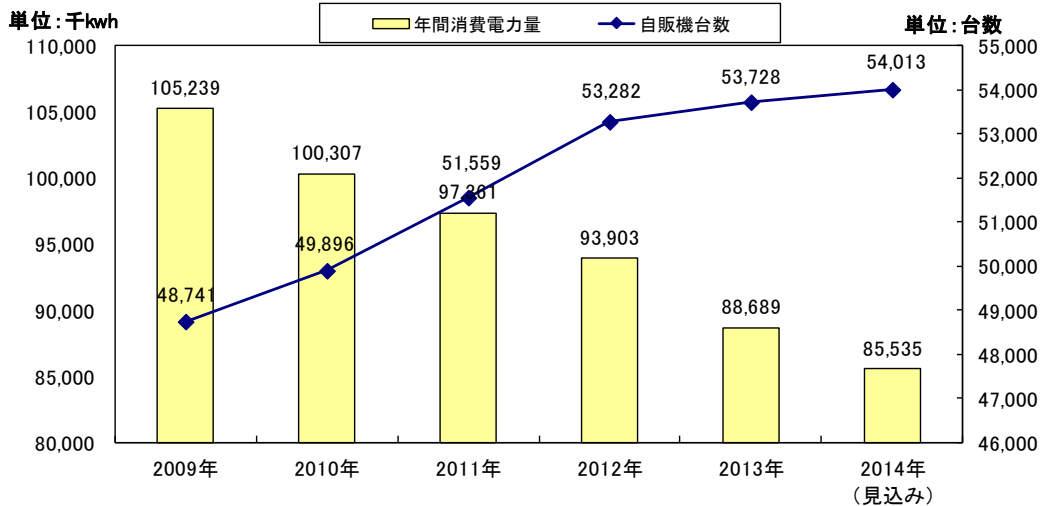


(1) 自動販売機の年間消費電力量（kwh）推移

北海道コカ・コーラグループで保有する約 54,000 台の飲料用自動販売機は、毎年 3～5%の電力量を削減し、省エネ化を進めております。

<缶自販機・カップ自販機の年間消費電力量推移>

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年(見込み)	
年間消費電力量	105,239千kwh	100,307千kwh	97,361千kwh	93,903千kwh	88,689千kwh	85,535千kwh	
(前年増減率)	-	95.3%	97.1%	96.4%	94.4%	96.4%	
自販機台数	48,741台	49,896台	51,559台	53,282台	53,728台	54,013	
(前年増減率)	-	102.4%	103.3%	103.3%	100.8%	100.5%	
内訳	通常機	44,612台	40,912台	38,276台	36,033台	32,299台	28,584台
	ノンヒートポンプ機	4,129台	8,984台	13,283台	17,249台	19,758台	20,815台
	ヒートポンプ機					1,671台	4,614台



- ◆年間消費電力量 (kwh) : 毎年 3~5%の電力量削減を実施  
2009年比約 19%の消費電力量削減
  - ◆ノンフロンヒートポンプ自販機 : 毎年 4,000~4,500 台の投入  
ヒートポンプ機以外の機種も各種省エネ機能を搭載
- ※2020年までに全数「ノンフロンヒートポンプ機」へ切替え予定

自動販売機における自主的な節電の取り組みを生活者やカスタマーに広く認知いただけるよう、全国のコカ・コーラシステム共通で、自動販売機に貼るステッカーや、従業員が身につける節電バッジを2012年より使用しております。



【ステッカー】

【バッジ】

## 2. 自動販売機の省エネ機能

### (1) ピークカット機能

これは、飲料自動販売機業界の取り組みとして、1995年から実施しています。7月から9月の夏場は冷房需要が急速に拡大し、特に午後1時から午後4時までの時間帯はたくさんの電力が使われていますが、これをピーク時間といいます。そこで、少しでもピーク時間帯における電力使用を抑制するため、7月から9月におけるピーク時間帯電力使用を抑制するため、10時から13時までに自動販売機の冷やしこみを行い、ピーク時間帯に冷却運動をストップすることでピーク時間帯の電力抑制に協力する機能です。現在はほぼ全台に普及しています。

## (2) 学習省エネ機能

自動販売機に内蔵されたコンピュータが、たくさん売れる時間帯とあまり売れない時間を記憶します。その販売傾向※の学習により消費電力を減少させる機能です。この機能は、1998年より導入され、現在はほぼ全台に普及しています。

### ※販売傾向

例えば「この自動販売機では通常△△時頃には〇〇本くらいの飲み物が売れている」というのが販売傾向です。この販売傾向から「この自動販売機では△△時頃には〇〇本売れるな」と予測し必要な場所を冷やします。自動販売機全体を常に冷やさないことで省エネとなります。

## (3) 24時間消灯

自動販売機の照明消灯による消費電力削減活動です。照明を消灯するという、わかりやすく、かつ見える省エネ活動は、暮らしの「便利」と同時に環境への「やさしさ」を消費者へ届けることができる、さりげなくて効果の大きいエコ活動です。

2008年から屋内の自動販売機を対象に実施し、屋外はデイルイト機能にて夜間のみ点灯しています。

## (4) ピークシフト自販機

2013年2月より全道への導入を行ない始めた超省エネ型自動販売機です。省エネのために進めてきた部分冷却から発想を変え、比較的電力に余裕がある夜間に収容製品の全量を冷却し保冷機能を高めることで、長時間冷却を停止しても、製品の温度上昇を抑制する「全体冷却」、真空断熱材の採用などによる「断熱効果の向上」、また「機密性向上」といったピークシフトテクノロジーにより、冷却のための電力使用を、一般的に電力使用が「ピーク」となる日中から、比較的電力に余裕がある夜に「シフト」しています。これにより日中の消費電力は95%の削減となります。

## 3. 自動販売機を活用した様々な社会貢献活動

### (1) 地域防災力の強化を支援“防災協力自動販売機”

この自販機は、電光掲示板を搭載しており、パソコンからの遠隔操作により文字情報を表示することが可能で、平常時には防災情報や地域情報を配信して、地域住民の防災意識の高揚をはかるとともに、緊急時は災害情報の配信や、同様の遠隔操作により自動販売機内の飲料水の無料提供を行います。

また、行政の地域住民への情報提供サービスの地域防災力を支援しています。

2013年3月時点で道内全179自治体と協定を締結し、約1,200台の自販機を設置しています。

東日本大震災の際には、当時防災協定を締結していた約150箇所の自治体のうち、太平洋沿岸部を中心とした26箇所の自治体の自動販売機50台にて、遠隔操作によるフリーベンド（無料提供：1万本）を災害当日より実施し、被災された方々に飲料水を提供させていただきました。

## (2) 「道の駅」で地域情報を提供 “おしらせ道ねっと”

各市町村と国土交通省北海道開発局との協働で道の駅などにおける新たな情報提供事業として、道路利用者の方々に道路情報や地域情報を配信するほか、災害発生時には自治体の判断で自動販売機内の飲料を無料提供しています。

2013年4月時点で、118台の自販機を設置しています。

## (3) 安全・安心な地域づくり「防犯ほっとインフォメーション」

北海道警察、並びに地域の警察署と日頃から地域の防犯意識を高め、更なる安全・安心な地域づくりを目指した協働事業として、防犯広報や身近な生活犯罪情報、事件情報などを配信しています。全道の警察署 69 署と協定を締結し、2013年3月時点で387台設置しています。

## (4) 自動販売機を見れば住所がわかるステッカー貼付

昨今の携帯電話の普及により、事件・事故・救急・消防に関して、警察や消防への通報に携帯電話が使用されることが多くなり、ステッカー表示により、早期対応と場所確認がスムーズに行われるようになりました。なお、この取組みは自動販売機業界全体の取組みとなっております。

## (5) 地元観光地図の掲示

観光客の現在位置、観光名所が一目でわかる地図を掲示することにより、行きたい場所や地域の特色などを確認することができ、お客様の場所確認が可能です。

## (6) 北海道との包括連携協定

2014年1月に北海道の活性化に向けて相互に連携・協力しながら協働事業に取り組む事として、包括連携協定を締結し、2014年4月からは全道に約1,300台ある電光掲示板付き自動販売機を道政広報ツールとしての活用が始まりました。



---

<本件に関するお問い合わせ先>

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

広報・CSR推進部 担当：竹中

011-888-2091